

**Q 1 3 各教科等における道德教育は、どのように行えばよいのですか。**

**－ポイント 1 3－**

- 道德教育と各教科等の目標、内容及び教材との関わりを通して指導する
- 学習活動や学習態度の育成に配慮して指導する
- 教師の態度や行動による感化を意識して指導する

学習指導要領では、各教科、(小)外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれにおいて、道德教育の目標に基づき、道德の内容について、各教科等の特質に応じて適切な指導をすることとされています。各教科等は、よりよい人格形成のためにあり、各教科等の目標に基づいてそれぞれに固有の指導を充実させる過程で、道德性が育まれます。そのことを考えて、各教科等において、見通しをもった道德教育を行うことが必要です。

**1 道德教育と各教科等の目標、内容及び教材との関わりを通じた指導**

各教科等の目標や内容には、児童生徒の道德性の育成に関係の深い事柄が、直接、間接に含まれています。各教科等において道德教育を適切に行うためには、まず、それぞれの特質に応じて道德教育に関わる側面を明らかにし、それらに含まれる道德的価値を意識しながら指導することが大切です。

**2 学習活動や学習態度の育成に配慮した指導**

児童生徒が学習に興味・関心をもち、主体的に取り組めるよう指導を工夫することや相互に学び合う協力的な雰囲気や人間関係を作るように配慮することは、望ましい道德性を育てることにつながります。また、体験的な学習や問題解決的な調べ方や学び方を身に付ける学習などを重視して、自分の生き方と関わらせながら学ぶ意欲や態度を習慣化することも大切です。

**3 教師の態度や行動による感化を意識した指導**

日常の各教科等の指導における教師の態度や行動は、児童生徒の道德性の育成に大きな影響を与えます。教師の用いる言葉や児童生徒への接し方などは、道德性が育つ学級の雰囲気や環境を作るとともに、児童生徒の人格の形成に直接、間接に影響を与えるものです。また、教師の授業に臨む姿勢や熱意は、授業中の様々な態度や行動になって現れ、児童生徒の態度や行動にも反映し、学級の雰囲気を作ります。

教師と児童生徒の信頼関係を育み、各教科等の特質に応じた道德教育を力強く推進しましょう。